

「森と里と海のつながり」をテーマにした京都大フィールド科学教育研究センター(センター長・田中克教授)の企画展が、左京区吉田本町の京大総合博物館で開かれている。森林から沿岸海洋までの生物圏研究を「連環学」として統合するセンターの取り組みを紹介、楽しみながら地球規模の環境問題が学べる。8月29日まで。

巨大なイワシクジラの頭骨(京大総合博物館で)



京大で企画展「森と里と海」テーマ



割りばしで作られたタコ

鯨の頭骨、漁具など200点

センターは、森と里と海のつながりを再生させる新しい科学の誕生を目指し、別々の取り組みをしていた全国にある京大の植物実験所や水産実験所などを統合して昨年四月に発足。昨年から企画展の準備を進めて

いた。「海は生命の源」「海岸でいま何が起きているか」「変貌する里の風景」「森に入ろう」など七つに分けてパネルなどで研究内容を紹介。一九三七年に採集したイワシクジラの頭骨の一部や、ホウボウなど舞鶴湾で採集した魚類のほか、節目が網目状になった珍しい「亀甲竹」をはじめとする竹の標本を展示。ほかに、竹製の漁具、ヤスリで樹皮を傷つけ湿布のような香りが体験できるカバノキ科の木「ミズメ」など計約二百点を紹介している。

使用済み割りばしを使ったタコや魚の彫刻もあり、会期中は定期的に実演「日本人と森」「森林生態系の仕組み」などをテーマにしたクイズもある。

入館料は、一般400円、高校、大学生300円、小、中学生200円。午前九時三十分～午後四時三十分、入館は午後四時まで。月、火曜休館。問い合わせは、博物館(075・753・3272)へ。

環境問題楽しく学ぼう